



平成29年1月31日
国土交通省中部地方整備局
名古屋港湾事務所
三河港湾事務所

JICA研修員が中部の港を視察します

～名古屋港と三河港の優れた港湾施設を紹介し国際協力に貢献～

中部地方整備局は2月8日～2月9日にJICA（独立行政法人国際協力機構）が実施している「港湾戦略運営」研修で来日している各国研修員を名古屋港及び三河港に迎え、優れた中部の港を紹介します。

1. 概要

国土交通省では、JICAとの連携による国際協力を積極的に推進しています。本視察は、研修参加者各国の公的機関において港湾運営に係わる部署の方を対象に、研修員の自国での課題を踏まえ、本研修における講義や視察を通じ、自国での戦略的な港湾の計画、運営への導入・応用等を検討するためのものです。主な視察は名古屋港では日本初の自動化コンテナターミナル、完成自動車の輸出台数及び金額が日本一である三河港においては新車整備センターの視察を予定しています。

2. 実施内容等

日時：平成29年2月8日（水）～平成29年2月9日（木）

場所：三河港内（2/8）及び名古屋港内（2/9）

行程：**三河港（2/8）** 三河港ポートインフォメーションセンターにて三河港概要説明、三河港展望、メルセデス・ベンツ日本の新車整備センター視察
名古屋港（2/9） 名古屋港事務所にて概要説明、飛島ふ頭南側コンテナターミナル視察、集中管理ゲート視察、海上交通センターより名古屋港展望
（※詳細スケジュール及び取材可能内容は別紙）

視察者：以下の各国より研修で来日の方々、14カ国より、計18名

ブラジル、カンボジア、エジプト、エルサルバドル、ガーナ、インドネシア、ケニア、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、南スーダン、スリランカ、東ティモール、チュニジア

3. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、日本海事新聞、港湾空港タイムス、海事プレス、豊橋市政記者会

4. お問い合わせ先

2月8日の三河港、2月9日の名古屋港視察についてそれぞれ以下の問い合わせ先です。

三河港（2/8）視察について

国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所

沿岸防災対策官 服部（はっとり）

Tel：0532-32-3251

Fax：0532-32-5049

名古屋港（2/9）視察について

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所

企画調整課長 ◎三崎（みさき）、係長 前川（まえかわ）

Tel：052-651-6763

Fax：052-651-0303

■視察スケジュール（詳細）

1. 視察者、視察目的、行程

視察者：以下の各国より研修で来日の方々、14カ国より、計18名
 ブラジル、カンボジア、エジプト、エルサルバドル、ガーナ、インドネシア、
 ケニア、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、南スーダン、スリランカ、東ティモール、チュニジア

視察目的：我国の代表的な港湾の視察を通じて、研修員の自国の港湾整備に係る諸問題に対する実現可能なアクション・プランを策定することとしています。日本で実践されている施設の有効活用、費用対効果、環境影響評価に配慮した港湾開発に触れることで、自国の港湾開発に対するイメージを具体化する一助となることが期待されています。

行程：

三河港 平成29年2月8日（水）

- 11：30～12：10 【概要説明】三河港の概要説明 **取材可能**
 （概要説明の時間については、現在調整中のため取材希望の場合はお問い合わせ下さい）
 場所：ポートインフォメーションセンター「カモメリア」
 住所：豊橋市神野ふ頭町3-29
- 13：30～15：30 【視察】メルセデス・ベンツ日本 新車整備センター ※1
- 15：40～16：00 【視察】カモメリア展望台より三河港を見学 **取材可能**
 場所及び住所：概要説明に同じ（「カモメリア」）
- 16：30～17：00 【表敬訪問】豊橋市
 （表敬訪問については、現在調整中のため取材の可否についてはお問い合わせ下さい）

※1 メルセデス・ベンツ日本の新車整備センターでは、日本に到着した車を整備し、顧客の納車日に合わせて全国の正規ディーラーに出荷します。また、併設のデリバリーセンターで納車されるマイカーを受け取ることもできます。

名古屋港 平成29年2月9日（木）

- 9：30～10：30 【概要説明】名古屋港の概要説明 会議室 **取材可能**
 場所：国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所
 住所：愛知県名古屋市港区築地町2番地
- 11：00～12：00 【視察】飛島ふ頭南側コンテナターミナル※2
- 12：15～12：45 【視察】集中管理ゲート ※3
- 14：20～15：00 【視察】海上交通センターより名古屋港を展望
- ※2 飛島コンテナ埠頭（株）が運営する日本初の自動化コンテナターミナルです。コンテナを無人で搬送する自働搬送台車、ラバータイヤ式ガントリークレーンを導入しています。
- ※3 集中管理ゲートとは、コンテナターミナルのゲート毎に行っている貨物の確認業務を分担し処理する施設です。集中管理ゲートで情報処理、貨物の確認業務を大部分実施することで各ゲートでの作業が少量化しスムーズとなり、ふ頭内の渋滞が緩和するなど、物流の効率化に寄与している施設です。